

大郷町大松沢地区の高橋^{よしよみ}佳郁さんは父の農業経営の手伝いを契機に、令和元年に会社員を辞め就農。認定農業者3年目の若手農業者であり、水稻やネギ、キャベツなどの園芸作物の複合経営をしている。夏期はピーマンの収穫最盛期で、果実の肥大が良好で、形状が安定するため歩留まりが高い品種「京ひかり」を、約10畝のほ場に700本作付しており、JAや町内の「道の駅おおさと」へ出荷している。

収穫作業は朝5時から始まる。深緑色に輝く、約8cmのピーマンを摘果鋏で丁寧に収穫していき、一日に一人で最大100kg収穫する。

収穫の様子



選別作業では重量ごとにS、M、Lの3サイズに分けていく。一つずつ手に取り、傷や汚れ、変色や奇形がないかを確認し、計量していく。

丁寧に選別を行う高橋さんと高橋さんのお母さん



高橋さんは「出荷先への信頼を損なうものは出荷できない。消費者に新鮮なものを食べてもらい、おいしいと言ってもらえることが一番嬉しい」と笑顔で語る。

高橋さんと収穫したばかりの新鮮なピーマン

